

試練は、乗り越えられるか

「神は、乗り越えられる試練しか与えない」という言葉があります。

この言葉は、人気テレビドラマ「仁」のテーマにも使用されていますが、元を辿れば聖書の一節です。

私はキリスト教徒ではありませんので、聖書の意味するところを正確に理解しているわけではありませんが、試練を乗り越えたことの結果が今を生きているということであるなら、まさに「神は、乗り越えられる試練しか与えない」に違いないと思います。

とはいえ、今回の東日本大震災で大切な家族をはじめ何もかも失ってしまった被災者に対して、「神は、乗り越えられる試練しか与えない」ものだから頑張れなどといえるでしょうか。私には、とてもいえません。

8年前、私が息子を亡くした時に、ある方から同じ言葉を聞かされました。恐らく、私を元気づけようとお気持ちからだろうと思っています。しかし、その言葉を聞かされた私の胸中は、「息子の死が神の与えた試練というなら、何故私であり息子が選ばれたのか」と反発の気持ちの方が大きかったように思います。

私は、月日を重ねる中で、次第に息子の死を受容してきましたが、それは息子の死という試練を乗り越えたということとは違うような気がします。ただ、その試練を前にして崩れ落ちずに生きてきたということは、何か大きな力によって生かされているのかなと感じています。

残された者、今を生きている者には、それぞれに生かされている意味があるはずだと思っています。私は、今を生きている者は、その意味を考え、生かされた命を生き抜くことこそが大切なのだと考えています。

人は皆、生きていく過程の中で、様々な困難、苦しみや悲しみに出会います。それを試練というなら、人は皆、試練と闘っているのです。ファイティングポーズを取ろうと取るまいと、死を迎えるまで闘い続ける、これが人の宿命というものです。

悲しみがあるからこそ高く舞い上げられる

涙があるからこそ私は前に進める

マハトマ・ガンジー は、『遺言詩』の中でこう述べました。

東日本大震災は、発生以来2ヵ月が経過しました。この間、被災された皆さんは、悲しみの涙、苦しみの涙を幾度流したことでしょう。しかも、将来の展望が開けない中、今もって苦難の道を歩いておられますが、どうか、生かされた命を大切に、強く生き抜いて欲しいと願って止みません。(塾頭 吉田 洋一)